

会議録

会議の名称	令和3年度座間市総合戦略推進懇話会		
開催日時	令和4年3月4日（金） 10時～10時45分		
出席者	座間市総合戦略推進懇話会委員		
事務局	企画財政部企画政策課企画政策係		
会議の公開可否	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	<input type="checkbox"/> 一部公開	<input type="checkbox"/> 非公開
	傍聴者数	—	
非公開又は一部公開とした理由	—		
議題	第2期座間市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和3年度評価報告書について		
資料の名称	1 座間市総合戦略推進懇話会設置要綱 2 第2期座間市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和3年度評価報告書		
会議の結果			
議題	各委員の意見を今後の地方創生の取組に活かすものとする。		
議事の概要			
事務局	<p>本懇話会の概要等を資料1に基づき説明。</p> <p>第2期座間市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和3年度評価報告書について、資料2に基づき説明。</p>		
委員長	これに対する意見、質問を求める。		
委員	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機にDXを推し進め、リアルの店舗を維持することから、デジタルを活用し、自宅や職場等から利用してもらう方向になった結果、支店を統廃合することになった。結果として、座間駅前の人流、活性化の面で、まちづくりにマイナスになったかもしれない。今後は、違う部分、別の形で地域貢献に力を入れていきたいと考えている。</p>		
委員	<p>神奈川県は、今まで人口増加していたが、減少局面に移ってきた。そんな中、県央地域は、厚木市や海老名市など全国的に魅力のあるまちが集まっており、座間市も微増ではあるが人口増加している。</p> <p>基本目標1のKPI「自然、歴史、文化を身近に感じるまちづくりが進められていると思う市民の割合」について、新型コロナウイルス感染症の影響はなさそうだが、原因は分析しているか。</p>		

事務局	<p>第五次座間市総合計画策定作業において、多くの市民からまちづくりについての意見をもらっており、本市は緑が多く自然が豊富だと概ね評価をいただいている。一方で、郷土資料館が未設置であることなど、歴史、文化についての発信が弱い面があり、それがK P I に反映されていると考える。</p>
委員	<p>市制施行50周年を記念したP R動画が人気を博しているとのことなので、シティプロモーションに努めていただき、移住・定住に繋げてほしい。</p>
委員	<p>基本目標3のK P I「駅周辺地区（小田急相模原駅、相武台前駅、座間駅、さがみ野駅）の人口」について、昨年とあまり数値が変わっていないように思うが、評価がBからAになっているのはなぜか。</p>
事務局	<p>評価の変更については、人口増加の要因として、駅周辺開発に一定の評価を頂けているものと考えたこと、また、駅周辺人口が大幅に減少していないことからAとした。</p>
委員	<p>このような指標は減少予想の途中経過を評価するため、難しいとは思いますが、達成という評価には違和感を覚える。また、駅周辺機能を強化するという考えであって、駅周辺人口を増やそうとしているのではないと思うので、総人口が増加しているのであれば、駅周辺人口を目標とする必要性は疑念が残る。</p>
委員	<p>県央地域において、事業所が他地域に移転する事例が多くなっている。住まいと働く現場は近い方が良いという視点からも、地域での雇用を確保するために、企業誘致等の対策の必要性を感じている。</p> <p>基本目標3のK P I「駅周辺地区（小田急相模原駅、相武台前駅、座間駅、さがみ野駅）の人口」について、「動向を注視していく必要があります」と記載があり、他項目に比べ文章表現が弱いと感じる。</p> <p>基本目標2のK P I「年間商品販売額」について、最新値が未公表というのはなぜか。</p> <p>基本目標2のK P I「生きがいを感じている高齢者の割合」の説明文について、詳細な具体例を記載した方が分かりやすいのではないかと思う。</p>
事務局	<p>文章表現について、具体的な取組や、実際に行ったこと、今後やるべきことを記載した方が分かりやすいと思うので、いただいたご意見を内部で検討させていただく。</p> <p>「年間商品販売額」についてはR E S A S（地域経済分析システム）</p>

副委員長	<p>から引用しているが、RESASでの数値の更新がないため、未公表とさせていただきます。</p> <p>基本目標3のKPI「子育てしやすいまちになっていると思う市民の割合」について、目標数値を37%とした理由を教えてください。</p> <p>座間市は待機児童数が県内ワーストであり、「子育てしやすいまち」という視点からすると不安がある。問題の解決には受け皿（保育所）と保育士の確保が必要である。「第2期座間市子ども・子育て支援事業計画」では、既存施設を活用していくとしているが、計画の進捗が良くない状況である。受け皿について、少子化が進む中、新設で対応すると、今は乗り切っても5年後、10年後には施設が成り立たない可能性がある。保育士についても同様で、保育士の確保ができたとしても、保育需要の低下により、余剰が出てしまう可能性がある。ただし、保育士の確保については、各自治体苦勞していると思う。保育士を輩出している立場から伝えたいのは、労働条件が余程良くない限りは、居住地周辺地域に就職する傾向が強いため、座間市の人が保育士を目指したいと思える環境を整備することが大事である。</p>
事務局	<p>本KPIは第四次座間市総合計画と同じものを採用しているため、この目標数値としている。</p> <p>待機児童対策については、保育対策という視点だけで考えてしまうことで、停滞している現状があるかもしれないので、多角的な視点からアプローチすることも必要と考えている。</p>
副委員長	同KPIのアンケート調査の対象は全体か。
事務局	お見込みの通り。
副委員長	この内、子育て世代はどう答えているかわかるか。
事務局	資料として作成はしていないが、アンケート項目に年代があるので、集計すれば把握可能と考える。
副委員長	子育て世代ではない方たちからすると、質問項目によっては「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答える傾向にあるので、子育て世代に絞った分析ができれば、次に活かせると考える。
事務局	「第2期座間市子ども・子育て支援事業計画」との連動等もあるので、情報共有や連携に努めたい。
委員長	各委員からの意見を踏まえて総合的に考えると、狭い範囲の中で物事を決めていると感じる。本市は少し歩けば市境に当たるような特性があり、工場等の事業所に勤めている人も近隣市から通勤している人が

	一定数いる。こういったことから、広域的な視点での評価、判断ができるようになるのではと考える。
委員	基本目標3のKPI「合計特殊出生率」について、総人口が増えている中で、合計特殊出生率については減少しているが、転入している年代層の分析は出来ているか。
事務局	詳細な分析は出来ていない。待機児童ワーストの問題はあるが、組織的に子育てに力を入れる体制になっており、子育て世代に移住してもらえらるような施策を展開している。
委員	若い人が多く転入しているが、合計特殊出生率が伸びていなければ、それは問題だし、高齢者が多いのであれば、若い人に移住してもらえらるPR等が必要と考える。是非、分析をしていただいて施策を展開していただきたい。
委員長	以前、商工会が調査した結果では、住宅の一次取得者が多かったと記憶している。出産を終えた世代で、子供が小学校や中学校にあがるタイミングで家を購入しているので、学力が高い地域にするような対策を取れば、もっと子供が転入してくると考える。
委員	子供たちにとっては座間市がふるさとになり得る世代だと思うので、その子供たちが大きくなったときに、座間市を愛してくれて座間市に戻って来ようと思えるような、移住者に合わせた施策を展開していただきたい。
委員	総括評価の中で、現在策定作業中の第五次座間市総合計画と本総合戦略の関係性に言及しているが、第五次座間市総合計画策定に伴い、本総合戦略も見直しを行うのか。スケジュール等が決まっていれば、教えていただきたい。
事務局	具体的なことは決まっていないが、本総合戦略のKPIは第四次座間市総合計画のKPIと連動していることもあり、市の最上位計画である総合計画と総合戦略のダブルスタンダードになることは避けたいため、そういった視点での見直しは必要だと考える。
委員長	子育てという表現をどう捉えるか、単に待機児童対策などのミクロな視点ではなく、子育てを取り巻く、住まいや交通、雇用、労働など、そこまで入れたマクロな視点での子育てで捉えることで良い結果が出ると考える。
	ほかに意見はあるか。
委員	特になし。

委員長

本日の協議はここまでとする。本日出た意見は事務局でとりまとめし、今後の地方創生の取組に活かしていただきたい。